# りんご生育情報(8月号)

令和６年８月 23 日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター
電話　0220-22-6127
HP　https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右の QR コードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。

## １．果実肥大状況

８月５日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径 110%、ヨコ径 112%と平年より大きくなっています。

表１　果実肥大調査結果（mm）

| | タテ径 | ヨコ径 |
|---|---|---|
| 本年 | 65.5 | 74.2 |
| 平年値 | 59.7 | 66.4 |
| 平年比 | 110% | 112% |

※東和町の測定値。

## ２．病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が８月５日に発行した発生予報第７号では、**果樹カメムシ類の発生量が「多い」、斑点落葉病の発生量が「やや多い」**と予報されています。また、ハダニ類、キンモンホソガの発生量は「平年並み」となっています。

管内では、ハダニ類の発生が確認されている園地がありますので、観察を強化し、多発する前に防除を行うようにしましょう。

表２　宮城県病害虫防除所発生予報第７号（令和６年8月５日発行）

| 病害虫名 | 発生量 |
|---|---|
| 斑点落葉病 | やや多 |
| ハダニ類 | 平年並 |
| 果樹カメムシ類 | 多 |
| キンモンホソガ | 平年並 |

病害虫防除所の７月下旬の巡回調査によると、果樹カメムシ類の発生地点率は例年並みであるものの、被害果率は平年よりも高く、過去 10 か月で最も高いことが報告されています。山林、特にスギやヒノキ林に隣接するほ場では、被害を受けやすいので注意しましょう。薬剤散布は果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的です。

## ３．これから発生しやすい気象災害への対策について　その１：台風

**台風**に対する技術対策

- 収穫可能な果実はできる限り収穫しておきましょう。その際、**農薬使用基準（農薬散布から収穫までの経過日数）**に留意しましょう。
- 普通樹は、主幹、主枝、亜主枝に支柱をし、倒伏や枝裂けを防ぎましょう。わい性台樹や若木は、トレリス又は支柱にしっかり固定し、倒伏、樹体の折損、落果を防止しましょう。
- 排水不良園では、明きょの掘削を行い、園地の排水対策を行いましょう。
- 浸水等により、枝葉に付着したごみや泥は、清水をかけるなどして取り除き、病害の伝染源になるのを防ぎましょう。
- 枝葉や果実の損傷が著しい場合には、殺菌剤を散布しましょう。
- 土砂の堆積が多い場合には、幹を中心に**直径２m程度**取り除き、土が乾いたら耕耘しましょう。

・倒木があった場合には根が乾かないうちに速やかに起こし、支柱で支えます。枝が裂けた場合には裂開部を縄やかすがいなどで接着します。枝葉の損傷が著しい場合には、切り落とし、塗布剤を塗りましょう。

## 4．これから発生しやすい気象災害への対策について　その２：高温

**高温**に対する技術対策

- 草生園（下草を生やし管理する園地）では、草の刈り取り回数を増やし（**草丈 15～20cm を目安**）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎます。また、刈り取った草は樹冠下へ敷草しましょう。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにするとともに、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。また、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果量としましょう。
- ハダニ類が多発しやすいため、園地の観察を強化し、防除を徹底しましょう。
- 土壌条件によって異なりますが、干天日数を目安とすると、**７日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20t/10a）程度**を目安にかん水するようにしましょう。
- 台木が **M.26 や M.9**（マルバカイドウを補助根としていない）が台木で、穂品種が **「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」**などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合があるので、かん水設備がない場合でもスピードスプレイヤー等で水を運搬してかん水しましょう。
- 成熟期の果実の着色不良に対して、適切な栽培管理による樹幹内環境の改善や反射シートの活用をしましょう。ただし、反射シートの活用は、日焼け果の発生を助長する場合があるので注意してください。

## 5．今後の管理について～「つがる」等早生品種の着色管理～

「つがる」など９月に収穫する品種の葉摘みの開始時期は，一般に収穫予定の 10～15 日前です。葉摘みは収穫までに２回に分けて実施し，１回目は果実に直接ついた葉を中心に軽く２～３枚程度除去し，２回目は玉回しと併せて果そう葉の 30～40%を上限として除去します。

早生品種の着色管理は残暑の時期に当たります。最低気温が 20℃を超えるような日が続く場合は，必要以上に葉摘みを強くしても着色は進みません。翌年の花芽の充実に影響を及ぼすこともあるので，過度な葉摘みはしないように注意してください。

参考：「果実日本８月号 2020vol.75」（日本園芸農業協同組合連合会）

**農薬危害防止運動実施中　（６月１日～８月 31 日）**

◆農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう！